

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)
教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

報 告 書

プログラム名	初任者・ミドルリーダー支援による循環型・発展型プログラム（リンクプログラム）の開発
プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none">・今後の学校教育を考えると、ミドル層教員及び若年層教員の一人一人の資質能力の向上及び、教員のチーム力向上が喫緊の課題の1つである。とりわけ、教員生活のスタートに当たる初任者教員にとって、異年齢・異経験度の教員とのかかわり合いを積極的に行うことは、資質能力を向上させる上で極めて有効であると考え。そこで、初任者とミドル層教員への研修を結びつけ、相互の資質能力向上を図る。・ここでは、ミドル層教員を「若手教員のモデル・よき理解者・学校のミドルリーダー」に、初任者教員を「ミドル層教員（等の様々の立場の教職員）のよき理解者・協力者・学校運営の主体的参画者」に、それぞれ育成するプログラムを展開する。そのため、相互にかかわり合い理解し合う中から、相互の資質能力を向上させ、各学校の核となる人材を育成する「支援循環型・発展型研修」といえる研修プログラム（リンクプログラム）を開発・構成し、その実施を通して、効果を検証する。・研修の場としては、校外研修（Off-JT）プログラムとして展開する他に、校内研修（OJT）においても活用できるものとする。また、研修教材としてテキストやDVDを作成し、校内外での研修活動に活用して、その効果を検証する。

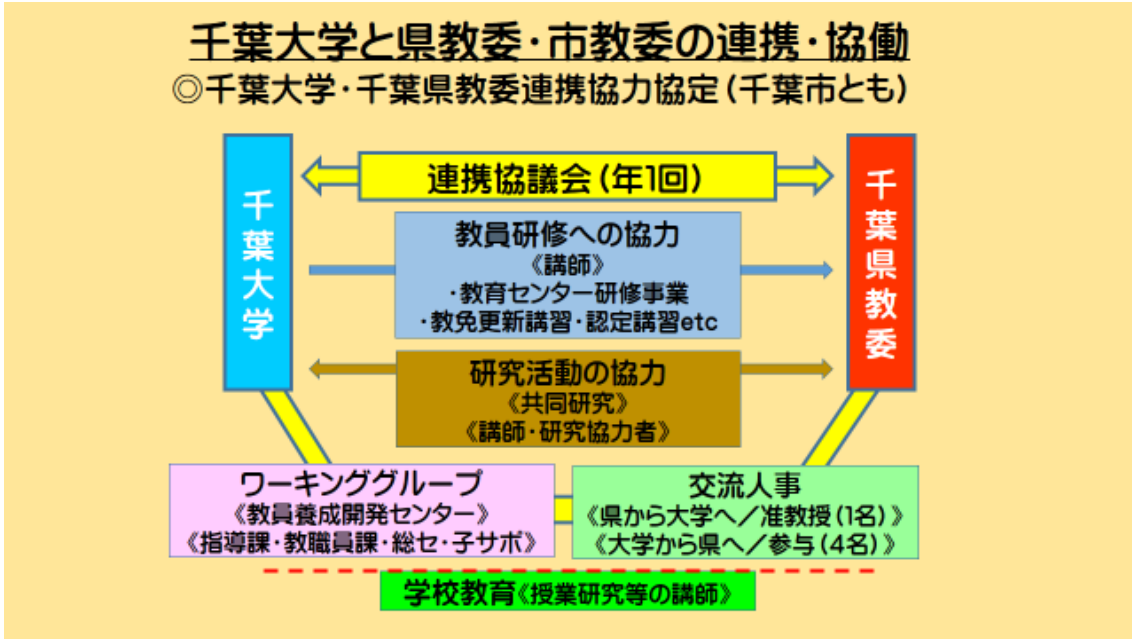
平成26年3月

千葉大学 千葉県教育委員会 千葉市教育委員会

《本プログラムの位置づけ》

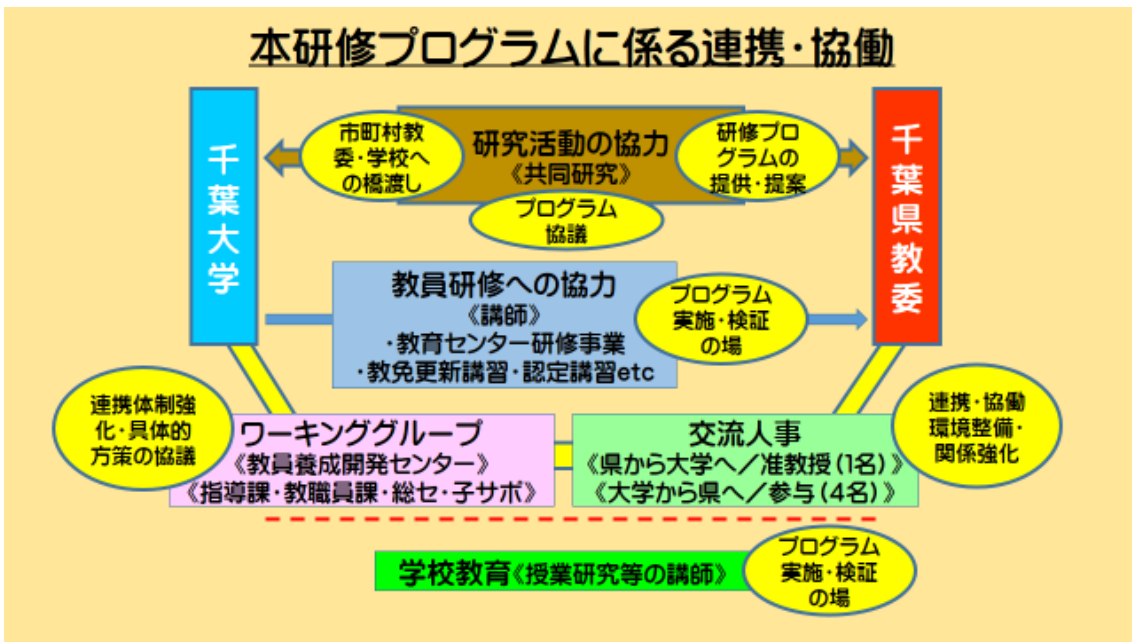
《千葉大学と教育委員会の連携・協働の全体概要図》

○本プログラムは、図中の「研究活動の協力」に含まれる。



《本プログラムに係る連携・協働の概要図(例:千葉県教委)》

○本プログラムを、ワーキンググループ(WG)や交流人事教員の活動とも連動させつつ、教員研修や学校教育の場で実施・検証する中で、より有効性あるものにしていく。



I 開発の目的・方法・組織

1 開発目的

本学と千葉県教育委員会・千葉市教育委員会の連携協力のもと、初任者教員とミドルリーダー層教員を結び付け、互いの資質能力の向上を図る研修プログラムの開発・実施・評価を行う。

初任者教員とミドル層教員が相互にかかわり合い理解し合う中から、相互の資質能力を向上させることで各学校の核となる人材を育成する、「支援循環型・発展型研修」といえる研修プログラム（リンクプログラム）及び活用性の高い教材を開発・構成し、研修プログラムを実施して、その効果を検証することが、本研究の目的である。

2 開発の方法

プログラム開発にあたっては、会議・打合せ等を定期的実施して共通理解や情報の共有化を図りつつ、具体的研修プログラムを構想・実施していくようにした。また、研究を進める中で、大学・行政・学校の連携・協働の体制づくりや具体的方策、そして研修プログラムのあり方・内容等を明確なものにしていくために、調査や事業を通じた研究活動を実施した。（以下、（１）～（４））

実際の研修プログラムについては、教育センター等の講座や校内研修等、様々な場の活用を通じた単独（もしくは複数）プログラムの実施を重ね、プログラム改善と有効性向上を図った。そして、初任者教員とミドル層教員のリンクによる１日研修プログラム（「授業力向上」に焦点化）を実施し、検証した。

さらに、研修教材として、授業力向上に焦点を当てた DVD を、テキストを併せて制作した。

（１）連携先との協議会・学内会議・打ち合わせ等

ア）連携協議会

第１回 平成２４年５月２３日（木）

- 【内容】①本年度の研究の流れ及び内容について
②現在の初任者研修の状況や課題について

第２回 平成２６年３月１４日（金）

- 【内容】①２年間の研究のまとめについて
②次年度以降の方向性について

※平成２４年１０月、平成２５年４月に実施する予定だったが、３者（千葉大学・千葉県教育委員会・千葉市教育委員会）の日程調整がつかず、延期（中止）。実質的にはワーキンググループ（WG）やインフォーマル連携（日常的な連絡や打ち合わせ等）で共通理解と情報の共有化を図り、研究活動を進めた。

イ）教員研修に係る実務者ワーキンググループ（WG／千葉大学・千葉県教育委員会）

第１回／平成２４年 ５月１７日（木） 第２回／平成２４年 ６月２１日（木）

第3回／平成24年 7月19日(木)	第4回／平成24年 9月12日(水)
第5回／平成24年11月15日(木)	第6回／平成25年 1月17日(木)
第7回／平成25年 3月 5日(火)	第8回／平成25年 5月16日(木)
第9回／平成25年 7月18日(木)	第10回／平成25年 9月12日(木)
第11回／平成25年11月14日(木)	第12回／平成26年 1月30日(木)
第13回／平成26年 3月14日(木)	

ウ) 学内プロジェクト会議

第1回／平成24年 4月10日(火)	第2回／平成24年 5月17日(木)
第3回／平成24年 6月21日(木)	第4回／平成24年 7月18日(水)
第5回／平成24年 9月 6日(木)	第6回／平成24年10月 4日(木)
第7回／平成24年11月 8日(木)	第8回／平成25年 1月24日(木)
第9回／平成25年 2月21日(木)	第10回／平成25年 4月18日(木)
第11回／平成25年 5月16日(木)	第12回／平成25年 7月18日(木)
第13回／平成25年 9月12日(木)	第14回／平成25年10月10日(木)
第15回／平成25年11月21日(木)	

※平成25年12月以降は、関係者内の日程調整がつかず、メール等で共通理解と情報の共有化を図り、研究活動を進めた。

エ) その他、打合せ等

○高校・大学・現職を結ぶ教員養成に係る打合せ会

【期 日】平成25年3月13日(水)

【出席者】千葉大学4名(副学部長、本プロジェクトメンバー3名)

千葉県教育庁企画管理部県立学校改革推進課

千葉県立千葉女子高等学校・安房高等学校

○千葉県、県内市町村教育委員会等への訪問による打合せ

- ・千葉県教育庁教育振興部指導課、教職員課
- ・千葉県総合教育センター研修企画部、カリキュラム開発部
- ・千葉県子どもと親のサポートセンター教育相談部、支援事業部
- ・千葉県教育庁葛南教育事務所、東葛飾教育事務所、北総教育事務所、東上総教育事務所、同山武分室、南房総教育事務所
- ・千葉市教育委員会学校教育部指導課、千葉市教育センター
- ・東金市教育委員会、山武市教育委員会、大網白里市教育委員会、九十九里町教育委員会、横芝光町教育委員会、芝山町教育委員会

○その他、日常的にメールや電話にて、千葉県教育委員会・千葉市教育委員会を始め諸関係機関との連絡を密に行った。

(2) 研修事業・授業等の参観

ア) 千葉県教育委員会による教員研修事業の参観

○平成25年 7月 2日(月) 東上総教育事務所管内での若手教員研修

(東金市立東小学校)

○平成25年10月24日(水) 初任者研修「豊かな関係づくり実践プログラム」
(千葉県総合教育センター、東葛飾教育研修所、
東上総教育研修所、南房総教育研修所)

イ) 学校の授業・研修等参観(学校名省略、()内は校数)

○千葉大学教育学部附属小・中学校 ○14市立小学校(21)・中学校(3)
○千葉県立高等学校(2) ○私立中・高等学校(1)

(3) 研究会・フォーラム等事業開催

ア) 千葉市教育センターとの研究活動「教師力アップのための校内研修の在り方」

(於：千葉市教育センター)

【第1回】平成25年 5月22日(水)

【第2回】平成25年 6月19日(水)

【第3回】平成25年 8月 1日(木)

【第4回】平成25年 8月30日(金)

【第5回】平成25年10月15日(火)

【第6回】平成25年12月 4日(水)

イ) 「初期層教員の研修」検討研究会

【テーマ】初期層教員の育成をめぐって～初任者研修の検討

【期 日】平成24年7月19日(木)

【出席者】千葉大学(本プロジェクトメンバー6名)

千葉県教育委員会

教育庁教育振興部指導課学力向上室員／各教育事務所指導室員

総合教育センター研修企画部員

子どもと親のサポートセンター教育相談部員・支援始業部員

千葉市教育委員会

学校教育部指導課員／教育センター教育研究部門員

【内 容】

1 初任者研修の現状と課題

(1) 「教員1年目の資質能力形成などに関する調査研究」の報告

(2) 初任者研修の実施状況及び課題

○千葉県の全体的状況から

○千葉市の状況から

○千葉県の各地域の状況から

(3) 協議

○初任者研修の方向性と改善について

2 初期層のメンタルヘルスについて

(1) 報告

(2) 協議

イ) 千葉大学教育学部フォーラムー1

【テーマ】 大学・行政・学校の連携・協働で「学び続ける教師」を育てる
～初期層教員の育成を中心に～

【主催等】 主催／千葉大学教育学部 後援／千葉県教育委員会・千葉市教育委員会

【期日・時間】 平成25年2月16日(土) 13時～16時45分

【会場】 千葉大学けやき会館(千葉大学西千葉キャンパス)

【内容】

- | |
|--|
| <p>○開会行事</p> <ul style="list-style-type: none">・挨拶 瀧澤文雄(千葉大学教育学部長)
重栖聡司(千葉県教育庁教育振興部長) <p>○基調講演</p> <p>「大学・行政・学校の連携・協働で『学び続ける教師』を育てる」
松木健一(福井大学大学院教育学研究科教職開発専攻長)</p> <p>○パネルディスカッション</p> <p>「大学と教育委員会の連携・協働による教員養成・教員研修の改善」</p> <ul style="list-style-type: none">・コーディネーター
天笠 茂(千葉大学教授・学長特別補佐)・パネリスト
松木健一(福井大学大学院教育学研究科教職開発専攻長)
高橋香代(岡山大学大学院教育学研究科教授
・岡山県教育委員会教育委員長)
金子英孝(千葉県教育庁教育振興部教職員課長)
山本幸人(千葉市教育委員会学校教育部指導課主幹)
保坂 亨(千葉大学教育学部教授)
佐瀬一生(千葉大学教育学部准教授) <p>○閉会行事</p> <ul style="list-style-type: none">・挨拶 久保桂子(千葉大学教育学部副学部長) |
|--|

【対象者】 大学関係者、教育行政関係者、学校関係者、一般

【参加者】 190名(講師・スタッフ含む。うちフロア参加者150名)

ウ) 千葉大学教育学部フォーラムー2

【テーマ】 大学・行政・学校の連携・協働で「学び続ける教師」を育てるー2
～教員養成・研修を通してどう育成するか～

【主催等】 主催／千葉大学教育学部 後援／千葉県教育委員会・千葉市教育委員会

【期日・時間】 平成25年11月30日(土) 10時～16時45分

【会場】 千葉大学けやき会館(千葉大学西千葉キャンパス)

【内容】

- | |
|--|
| <p>○開会行事</p> <ul style="list-style-type: none">・挨拶 高橋浩之(千葉大学教育学部長) |
|--|

瀧本 寛（千葉県教育委員会教育長）

○基調提案

「3大学からの教員養成・研修推進の実践提案」

篠原一彦（佐賀大学文化教育学部附属教育実践総合センター准教授）

「大学と行政の連携・協力協議会を通じた教員養成・研修の推進」

久保田尚（山口大学教育学部附属教育実践総合センター准教授）

「ちゃぶ台方式による協働型教員養成・研修推進プログラム」

佐瀬一生（千葉大学教育学部附属教員養成開発センター准教授）

「初任者とミドルリーダーのリンクによる教員研修プログラム」

○基調講演

『学び続ける教員像』を実現するために－大学・行政・学校の連帯－

高岡信也（独立行政法人教員研修センター理事長）

○パネルディスカッション

「大学と教育委員会の連携・協働による教員養成・教員研修の改善

－具体的組織・活動をどう構想・実践するか？－

・コーディネーター

天笠 茂（千葉大学教授）

・パネリスト

高岡信也（独立行政法人教員研修センター理事長）

小川哲史（千葉県教育庁教育振興部指導課長）

山本幸人（千葉市教育委員会学校教育部指導課主幹）

土田雄一（市原市立白金小学校長）

佐瀬一生（千葉大学教育学部附属教員養成開発センター准教授）

○閉会行事

・挨拶 丸山研一（千葉大学教育学部副学部長）

【対象者】 大学関係者、教育行政関係者、学校関係者、一般

【参加者】 100名（講師・スタッフ含む。うちフロア参加者68名）

（4）研修プログラム開発に向けての県内市町村教育委員会に対する教員研修に係る調査

ア）市町教育委員会への聞き取り調査

【実施時期】 平成24年9～10月

【対象】 東上総教育事務所管内山武地区6市町（東金市、山武市、大網白里町、九十九里町、横芝光町、芝山町）

【主な結果と課題】

○千葉県内の郡部に位置するこれらの市町は、小規模でもあり、教育センターを持っていない。教育委員会内に指導室があり指導主事がいるのは6市町中1市のみであり、その市でも指導行政に限らず幅広い業務を担っている。各市町とも十分な教員研修が展開できない実情がある。

○教員の資質能力向上に対しては重要視している。県等で行う研修への参加や

各学校での校内研修の活性化を促したいが、予算等の問題もあり、なかなか難しい。

○ニーズに対してオンデマンドな講師派遣や実践的効果的な研修プログラムの実施を望んでいる。そのリードを県や大学に依頼できればありがたい、という要望を持っている。

イ) 千葉県内各市町村教育委員会へのアンケート調査

【実施時期】平成24年12月（郵送による）

【主な結果と課題】

○概して、都市部の市では市独自の研修を体系的に実施しており、市教育委員会や教育センターによる研修サポートも積極的に行われている傾向が強い。逆に郡部の市町村では教育委員会の組織規模・人員も小さく、教育センターがなく指導主事もいないところが極めて多い。ア) の聞き取り調査と同様の状況である。県内の地域格差が非常に大きくなっている実情がある。

3 開発組織

No	所属・職名	氏名	担当・役割
	【千葉大学教育学部】		
1	・教授	天笠 茂	研究代表者：全体統括
2	・教授	中澤 潤	幼小連携、評価
3	・教授	片岡 洋子	人権教育、評価
4	・教授	伏見 陽児	授業経営
5	・教授	保坂 亨	メンタルヘルス
6	・教授	吉田 雅巳	I C T教育
7	・教授	岡田加奈子	健康教育
8	・教授	藤川 大祐	メディアリテラシー・キャリア教育
9	・准教授	笠井 孝久	教育相談
10	・准教授	佐瀬 一生	事務局（連絡調整・渉外等）、授業・学級経営、人間関係づくり、DVD・テキスト制作
	(平成24年度)		
11	・教授	上杉 賢士	道徳教育、生徒指導
	(平成25年度)		
12	・准教授	磯邊 聡	教育相談

13	【千葉県教育委員会】 ○教育庁教育振興部 指導課学力向上室 ・主任指導主事	岡澤 義信	企画・評価担当
14	・指導主事	土屋 俊之	研修実施・評価担当
15	○総合教育センター 研修企画部 ・指導主事 (平成24年度)	國吉 正彦	研修実施・評価担当
16	・主任指導主事 (平成25年度)	秋山 泰彦	企画・評価担当
17	・主任指導主事	平瀬 典子	企画・評価担当
18	【千葉市教育委員会】 ○学校教育部教育センター (平成24年度) ・主任指導主事	青木 一	企画・評価担当
19	・指導主事	千葉 恆胤	研修実施・評価担当
20	・指導主事 (平成25年度)	岩原 浩之	研修実施・評価担当
19	・主任指導主事	千葉 恆胤	企画・研修実施・評価担当

II 開発の実際とその成果

1 「学校での校内研修プログラム」の実施

(1) 初任者研修（フォローアップ研修）プログラム

○目的

- ・実際の学校現場における初任者（を含む若手教員）育成の校内研修プログラムの計画・実施を通して、その効果を探る。
- ・初任者教員の教師力（課題発見力・自己理解力・計画構想力）向上を図るとともに、学校としての初任者研修（校内研修）プログラム構築・改善につなげる。

○実施日時 平成25年5月8日（水）15：45～16：45

○会場 千葉県山武市立山武西小学校

○受講対象者

山武市立山武南中学校ブロック3校（山武南中学校・山武西小学校・日向小学校）の初任者（フォローアップ研修）対象教員2名、同3校リード層教員3名

○内容

- ・初任者研修フォローアップ研修の一環として、「シンキングマップ作成を通じた

自己の課題発見・年間研修テーマ立案」プログラムを実践する。

1. 自分が現在「困っていること・悩んでいること・課題と感じていること」「自分の力として『つきたい』『伸ばしたい』と思っていること」を付箋紙に書き出す。
2. 個々で、画用紙に付箋紙を貼り整理するシンキングマップを作成する。
3. 作成したシンキングマップを見直したり相互のマップを鑑賞したりした上で、自他の「課題」や「願い」について情報や意見を交換し、相互理解を図る。
4. リード層教員からコメントする。

(2) 全体研修プログラム

○目的

- ・実際の学校現場における校内研修（全体研修）プログラムの計画・実施を通して、その効果を探る。
- ・教員相互がかかわり合い共感し合いながら個々の教師力（授業力）向上を図るとともに、学校としての校内研修プログラム改善につなげる。

○実施日時 平成25年5月30日（木）15：20～16：30

○会場 千葉県山武市立日向小学校

○受講対象者

山武市立日向小学校教員15名

○内容

- ・校内研修の一環として、「授業における教員の授業力の『見える化』」プログラムを実践する。

1. 授業DVD①（解説テロップなし）の視聴
2. 視聴メモをもとにした協議（GW）
3. 授業DVD②（解説テロップあり）の視聴
4. 「授業をみる」上での要点（グループ協議・全体発表）
5. 「授業の4力」と「23のコンピテンシー」（レクチャー）
6. リフレクション

(3) 評価・考察

○ここで行った初任者研修（フォローアップ研修）プログラムは、初任者教員が日常的に抱えている「わからない」「不安」「困った」の中身を具体的に自覚することで、改善・解決への手がかりを見いだそうとしたものである。プログラム後のインタビューでは、「普段は何気なく思い、感じていただけの事柄が、付箋紙に書き出し『見える化』したことで、自分が何をどう思い、感じていたか具体的にわかった」「その『具体的にわかる』ことが大事だということがわかった」「具体的にわかることで、何をどうしていけばよいかの課題や、道筋が見えてきた」という答えがあった。「自ら学ぶ教師」モデル図（P27に記載）の「今の自分を知る」に相当する部分であり、初任者にはこの段階での「課題の見える化」が重要であることがわかる（初任

者だけのことではないだろうが)。また、リード層教員からは「初任者がこんなことを思っていたことが具体的にわかった」「自分の感覚とのずれや違いがはっきりした」等の答えがあった。リード層教員にとっても、初任者教員を理解し、リードする上で「見える化」することの重要性が明らかになった。そして、その具体的方法としてシンキングマップ（KJ法やイメージマップ、ウェビング等）が非常に有効であるといえる。

- 全体研修プログラムでは、学校から要請された「授業力向上研修」として、DVD視聴を通して授業力を「見える化」するプログラムを行った。プログラム中のグループ協議では、若年層教員と先輩教員のかかわりが自然に行われ、教員相互の学び合いやプラスの人間関係づくりにつながるということが認められた。各層のリンク活動が相互にとって有効に働くといえる。また、研修後のフリートークでは、初任を含む若年・ミドル・ベテランのどの層からも、このプログラムへの肯定的意見が出され、幅広い有効性が確かめられた。
- 「初任者とリード層のリンク」の観点では、初任者側が「見守られること」の安心感を持つことの重要性が確かめられた。何かあったらサポートしてもらえる、という気持ちを初任者が持てるか否かが大きいということである。そのためには、「リード層が初任者を理解する」ことが必要である。初任者の状況や思いを「わかっているつもり」でも、それは本当に「わかっている」ことではない、ということに、付箋紙書き出し～シンキングマップ作成の過程でリード層教員が気づいた。ここでも「内面（思いや考え）の見える化」が重要であるといえる。

2 「センター等での校外研修におけるプログラム」の実施

○目的

- ・教育センター等での初任者・若年層教員やミドル層教員を対象にした研修講座における教師力向上に係るプログラムの実施を通して、その効果を探る。（講師として招聘された各研修における研修プログラム実施の積み重ねにより、そのあり方ややり方を精査する）
- ・教員相互がかかわり合い共感し合いながら個々の教師力（授業力）向上を図るとともに、ミドル層教員については初任者教員（を含む若手教員）へのリード力を高める。

(1) 北海道教育委員会「第1階巡回指導教員活用事業全道研修会」

○実施日時 平成25年4月17日（水）10:00～16:00

○会場 北海道第二水産ビル（札幌市）

○受講対象者

- ・巡回指導教員及び本務校管理職
- ・教育局において巡回指導教員活用事業を担当する指導主事 計65名

○内容

- ・若手教員等の指導力向上に向けた具体的な方策

○実施したプログラム

- ・「実際の授業実践例のワンポイント体験を通じた「授業を『つくる力』」獲得」プログラム
- ・「授業力の「見える化」～達人の授業DVDから学ぶ」プログラム

(2) 袖ヶ浦市総合教育センター「思考力判断力表現力研修会」

○実施日時 平成25年8月2日(金) 9:00～12:00

○会場 袖ヶ浦市総合教育センター

○受講対象者

袖ヶ浦市立小・中学校教員40名

○内容

- ・思考力・判断力・表現力を育成する授業(授業力の向上)

○実施したプログラム

- ・「実際の授業実践例のワンポイント体験を通じた「授業を『つくる力』」獲得」プログラム

(3) 千葉県総合教育センター「授業力アップ集中研修」

○実施日時 平成25年8月6日(火) 9:30～16:30

平成25年8月7日(水) 9:30～16:30

○会場 千葉県総合教育センター

○受講対象者

千葉県内各教育事務所から推薦された小・中学校ミドル層教員50名

○内容

- ・授業力向上の要点と具体的方策

○実施したプログラム

- ・「シンキングマップ作成を通じた自己の課題発見・年間研修テーマ立案」プログラム
- ・「実際の授業実践例のワンポイント体験を通じた「授業を『つくる力』」獲得」プログラム
- ・「授業力の「見える化」～達人の授業DVDから学ぶ」プログラム
- ・「研修プログラムからの学びの共有～協議を通じたポイント整理とリフレクション」プログラム

(4) 市原市教育センター「思考力判断力を育てる講座」

○実施日時 平成25年8月19日(月) 9:00～12:00

○会場 市原市教育センター

○受講対象者

市原市立小・中学校教員46名

○内容

- ・思考力・判断力・表現力を育成する授業(授業力の向上)

スケールレベル(SL)チェック結果							
大観点	観 点	とてもよい	よい方	普通	悪い方	とても悪い	トータルSL 1 ≤ n ≤ 5
		5	4	3	2	1	
自己評価	研修内容への関心	36	12				4.75
	理解の深化	31	15	2			4.60
	自己の向上	28	15	5			4.48
カリキュラム評価	内容の適切性	41	7				4.85
	活動の充実	37	9	1			4.67
総合評価	全体として	36	12				4.75

教員にとっても、本プログラムが有効であることが認められた。

- ・ 2日間全体についての自由記述からは、特に「主体的・能動的スタイル」「自らの現在位置（状況）の気づき」「グループの仲間との協働」「具体的場面を通じた理解」「実践的活動（演習等）」「成長の実感・自覚・自信」等が類型キーワードとして抽出された。これらの要素を組み込んで研修をプログラムすることの重要性を再確認できた。

○それ以外の各プログラムでは、主催側が用意した研修全体に係る評価用紙があった関係で、プログラム専用の評価用紙は使わなかった。そのため、数値や記述の評価データはない。プログラム実施中や終了時の観察及びフリートーク、主催者からの連絡等から考察すると、「授業力アップ集中研修」での類型キーワードと同様の結果とまとめられる。これらの研修プログラムの対象者は、(5)が初任者教員、(1)が指導層（初任者指導教員・管理職・指導主事）、(3)がミドル層、(2)(4)(6)が各層相乗り、と様々であるが、どの層においても、研修プログラムに組み込む重要要素は同じであるということである。

3 教員研修プログラム「若手教員の授業力UP！公開講座」

～授業を「みる」力、「つくる」力を鍛える～

(1) プログラム

○目的

- ・ 教員の「教師力」育成に向け、教員研修プログラムの計画・実践を通して、その効果を探る。
- ・ 参加若手教員の「授業力」向上及び参加ミドル層教員のリード力向上につなげる。

○実施日時 平成25年7月27日（土）9：15～16：30

○会 場 千葉大学教育学部附属教員養成開発センター

○講 師 佐瀬一生（千葉大学教育学部准教授）

○受講対象者及び募集人数

教職経験1年目～3年目の小・中学校教員及び講師（50名）

○日程・内容

9：00 受付開始

9：15 ガイダンス

9：20－10：35 《メニュー1》

「授業の悩みや課題の共有」～レントゲン技法による内面の「見える化」～

- ① グループづくり、グループ内自己紹介
- ② 「内面の『見える化』」と「レントゲン技法」(レクチャー)
- ③ シンキングマップの作成(グループワーク:GW)
- ④ シンキングマップの相互「鑑賞」
- ⑤ リフレクション

10:45-12:00《メニュー2》

「“達人の授業”をみる」

～研修教材DVDを活用した「授業を『見る』力」獲得プログラム～

- ① 授業DVD①(解説テロップなし)の視聴
- ② 視聴メモをもとにした協議(GW)
- ③ 授業DVD②(解説テロップあり)の視聴
- ④ 「授業をみる」上での要点(全体協議)
- ⑤ 「授業の4力」と「23のコンピテンシー」(レクチャー)
- ⑥ リフレクション

12:00-13:00 昼食

13:05-14:20《メニュー3》

「授業の“あり方”と”やり方”」

～授業マネジメント論に基づくPDCA思考獲得プログラム～

- ① 授業の基本構造(レクチャー)
- ② 授業経営と学級経営(レクチャー)
- ③ 顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム(レクチャー)
- ④ 「授業をつくる」上での要点(全体協議)
- ⑤ リフレクション

14:30-15:45《メニュー4》

「授業で求められる『重点事項』の具体化」

～実際の授業実践例のワンポイント体験を通した

「授業を『つくる力』」獲得プログラム～

- ① 「素材の教材化」から～「身の回り」の素材から教材を考える(演習)
- ② 「教材研究」から～「あなたはどっち?縄文人と弥生人(小6)」
(演習)
- ③ 「言語活動の充実」から～「5・7・5であそぼう(小3)」(演習)
- ④ 「教科間の関連性」から～「『千葉の〇〇』から始まる(小6)」(演習)
- ⑤ リフレクション

15:45-16:15《メニュー5》

「研修プログラムからの学びの共有」

～協議を通したポイント整理とリフレクション～

- ① 「授業を『みる』『つくる』上での要点」グループ協議
- ② 全体発表

③リフレクション

16:15-16:30 まとめ

①グループアドバイザーから

②全体のまとめ

② リフレクションカード…提出

16:30～ 解散

(2) 受講者等の募集について

○募集パンフレットを作成し、千葉県内の全公立小・中学校に配付して、参加者（教職経験1年目～3年目の小・中学校教員及び講師）を募集した。参加申込みは、受講希望者本人からFAXもしくはE-mailにより申し込む方式で行った。また、ミドル層教員は、本学部附属小学校に依頼し、当日かかわっていただける教員を募集した。

- ・市町村立小・中学校には、市町村教育委員会に学校数分のパンフレットを、鑑文をつけて郵送し、各教育委員会から学校に配付していただいた。千葉市については、市教育委員会に持参・説明の上、学校ボックスを通じて配付した。
- ・県立中学校には郵送し、本学部附属小・中学校には直接持参した。
- ・千葉県教育委員会（指導課）にも、上記手続きについて説明し、了解を得た中で行った。

○実際の参加者は以下の通りである。

- ・若手教員42名（小33名・中9名／教諭31名・講師11名）
- ・ミドル層教員9名（小7名・中2名／経験年数6～19年目。1名のみ30年目）。附属小5名の他、千葉県長期研修生2名、パンフレットを見て自主申込み2名。

(3) 運営や各プログラムの内容と方法

○小学校7グループ、中学校2グループの計9グループ（1グループ4～5名）にして、各グループにミドル層教員1名がつくようにした。割り振りは地域・経験年数・性別等を考慮しできるだけ同質化を図った。

- ・受付で所属グループを知らせ、初めから1テーブル1グループの座席配置にした。このことで、開始前から自然にコミュニケーションが行われた。
- ・ミドル層教員には、プログラム内のスタンスの基本を、「指導」ではなく「見守り」であること、相談を受けたり気になったりした時に端的にコメントする程度で、できるだけ自分たち自身で考えられるように返すことを依頼した。

○各プログラムでは、「理論と実践」「参加・体験・協力」を基本コンセプトに、個々及びグループで学び（合い）、考え（合い）、認め（合い）、高め（合い）ができるように内容と方法を構成した。

- ・レクチャーの中でも、できるだけ理論につながる具体例や場面を提示し、発表や話し合い等を取り入れ、活動的・実践的な内容・方法を工夫した。
- ・協議・演習を中心に構成し、「自ら考え改善・解決する」流れを組んだ。

- ・グループワーク（GW）を積極的に行い、グループ間の情報交換・共有も図れるようにした。

（４）評価・考察

- リフレクションノート（A4：1枚／次ページに掲載）を用意し、各メニューの終了時（5分間）に受講者を書いてもらった。また、全プログラム終了時（10分間）にトータルリフレクションカード（A5：1枚）に記入・記述してもらった。

教員研修プログラム リフレクションノート(2013.07.27)						氏名						G
※評価 上3項目=自己評価 / 下2項目=授業評価 5=◎ 4=○ 3=△ 2=x 1=××						所属校						
回/月日	学んだこと・考えたこと・感想・質問・意見など					評価	5	4	3	2	1	全体的評価
メニュー-1						内容への関心						5
						理解の深化						4
						自己の向上						3
						内容の適切性						2
						活動の充実						1
回/月日	学んだこと・考えたこと・感想・質問・意見など					評価	5	4	3	2	1	全体的評価
メニュー-2						内容への関心						5
						理解の深化						4
						自己の向上						3
						内容の適切性						2
						活動の充実						1
回/月日	学んだこと・考えたこと・感想・質問・意見など					評価	5	4	3	2	1	全体的評価
メニュー-3						内容への関心						5
						理解の深化						4
						自己の向上						3
						内容の適切性						2
						活動の充実						1
回/月日	学んだこと・考えたこと・感想・質問・意見など					評価	5	4	3	2	1	全体的評価
メニュー-4						内容への関心						5
						理解の深化						4
						自己の向上						3
						内容の適切性						2
						活動の充実						1
回/月日	学んだこと・考えたこと・感想・質問・意見など					評価	5	4	3	2	1	全体的評価
メニュー-5						内容への関心						5
						理解の深化						4
						自己の向上						3
						内容の適切性						2
						活動の充実						1

- 受講者（初任者教員）の評価及び指導者の見取りから

- ・各メニューとも、全体的評価のスケールレベルチェックをトータルすると、すべて4.5以上と、非常に高い評価を得た。

メニュー	1	2	3	4	5
トータルSL	4.76	4.86	4.55	4.81	4.71

- ・メニューごとに、各評価観点スケールレベルチェックや自由記述とあわせてみると、以下のようにまとめられる。

《メニュー1》「授業の悩みや課題の共有」

- ・「自分が何をどう悩み、わからないでいるか」を付箋紙により書き出したことで、漠然としていた思いや不安を具体的かつクリアに「見える化」できた。そのことで、自分の中で「ああ、そういうことだったのか」と「腑に落ちる」状態になった。その一連が大きな意味を持つ。
- ・さらに、その付箋紙を出し合い、グループで協力しながら模造紙にまとめる（シンキングマップづくり）作業の過程で、「自分と同じようにみんな悩んでいる」「自分は書かなかったことでも、他の人が書いたことに『な

るほど、確かに』と納得できた」といった共感や安心感、「お互いのアイディアを出しながら協力して進め、つくりあげられた」といった協力・協働のよさの気づき、「こんなふうに個別の事柄をまとめてつなげて考えられることが『目から鱗』』といった新たな気づきや知識獲得の喜び、等が多く記述された。実際の活動も非常に活発に展開された。

- ・加えて、グループ相互に「作品」の見合いをする時間を取ったことで、グループ内活動で抱いた心情や考えがさらに強化・拡充されている。
- ・各評価観点ともトータルSL 4.7以上という非常に高い結果であった。

《メニュー2》「“達人の授業”をみる」

- ・授業の見方や、その際の観点等についても、これまで「何となく」「漠然と」だったものが、DVD映像を意図的にみて「ポイントが何か」を考えるとというシチュエーション設定により、受講者は「意識的にみて考える」ことに追い込まれた。そのような意識が、「授業の見方が変わった」「授業中の教師の様々な配慮や手立てに驚いた」「意味を感じられるようになった」「自分の授業と比較して考えるようになった」という変容を生んだ。
- ・グループ協議では、互いに多くの「なるほど」を感じ、多面的・多角的な見方・考え方の涵養につながった。
- ・再度、「テロップ解説プリント」で確認しながらテロップ解説入りの映像をみることで、「授業の深さ」「指導の深さや広さ」を実感的に感じ取り、自分の今後の授業の課題や頑張りどころを自覚していた。
- ・各評価観点ともトータルSL 4.7以上という非常に高い結果であった。

《メニュー3》「授業の“あり方”と”やり方”」

- ・他のプログラムに比較すると、トータルSLは各評価観点とも低くなった。「理解の深化」「自己の向上」「活動の充実」は4.3台であった。これは、レクチャー中心の構成であったためと考えられる。しかしその中でも「日常ではあまり考えていなかった」が、「とても大事なことだという理解」は多くが記述していた。また、途中折々に具体的な例や場面を示したことが、「頭理解と日頃の学校生活・授業につながった」といった記述が多くあったことにつながると考えられる。特に、潜在的カリキュラムについては、「目から鱗」という反応や記述が極めて多くあった。

《メニュー4》「授業で求められる『重点事項』の具体化」

- ・4つの観点（素材の教材化、教材研究、言語活動の充実、教科間の関連性）を取り上げ、具体的な実践例を通して演習（模擬授業）的に行ったことで、非常に具体的なイメージや実感を持って理解し納得できたようである。
- ・各評価観点ともトータルSL 4.7以上という非常に高い結果であった。

《メニュー5》「研修プログラムからの学びの共有」

- ・これまでの各プログラムを通して学んだことをもとに、「授業の要点」をグループ協議させた。その際に、メニュー1で作成した模造紙に気づき

や考え等を書き入れるようにさせた。最初に持っていた不安や悩み、課題などがプログラムの中で解決に向かったこと、新たな発見や気づき、見方・考え方の広がりが見られたこと、協働・共有のよさや大切さに気づき実感したこと、そして1日の中での自己の成長を自覚した旨の記述が非常に多く見られた。協議の様子からも、リフレクションの大切さをよく実感していることが伺えた。

・各評価観点ともトータルSL 4.5以上という非常に高い結果であった。

大観点	観 点	とてもよい	よい方	普通	悪い方	とても悪い	トータルSL 1 ≤ n ≤ 5
		5	4	3	2	1	
自己評価	研修内容への関心	37	5				4.88
	理解の深化	32	10				4.76
	自己の向上	31	11				4.74
カリキュラム評価	内容の適切性	38	4				4.90
	活動の充実	38	4				4.90
総合評価	全体として	36	6				4.86

- ・全プログラム終了時のトータルリフレクションの結果は、以下の通りである。
 - ・全評価観点ともトータルSL 4.7以上という非常に高い結果であった(上表)。
 - ・自由記述や協議での発言からは、メニュー5と同様の記述がほとんどであり、加えて、今後への意欲・やる気を持てたこと、今回の研修プログラムに参加してよかったこと、等の感想が多く記述された。また、この研修プログラムのような「自分から求めて参加する研修機会」が普段ないこと、もっとあったらいいという希望、今後どこか探し参加して教師力向上につなげたいという自己改善意欲などの記述や発言も見られた。

○ミドル層教員の評価及び指導者の見取りから

- ・初任者教員と同じリフレクションノート・カードを用いて「初任者教員にとってどうだったか」「自分にとってどうだったか」という両面で記入・記述してもらった。全体的に非常に高い評価で、ほとんどの評価観点がトータルSL 4.5以上という結果であった(メニュー3のいくつかの観点が若干低い結果)。自由記述でも、肯定的内容がほとんどであった。

○「初任者とミドル層のリンク」の観点から

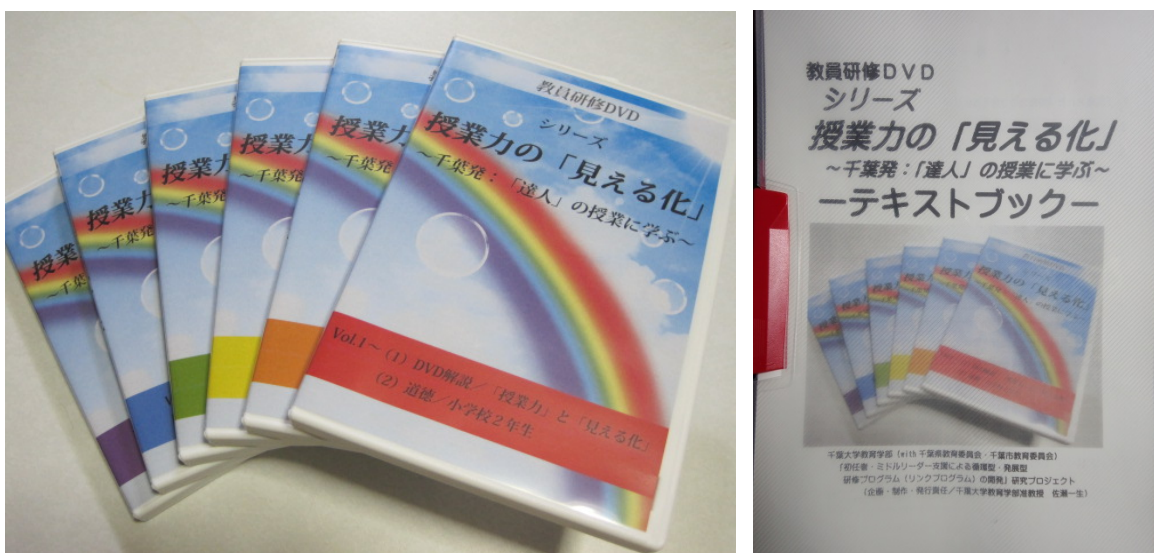
- ・初任者にとっては、自分たちのところに1人、ミドル層教員がサポートにしているという形態は、非常に安心感を持って活動に取り組むことにつながるものが、ここでも明らかになった。日々の学校生活の中でも、この「安心感」は重要であろう。教員相互、そして教員チームとしての共感的・協働的な「プラスの人間関係づくり」が重要である。
- ・プログラム実施中、初任者を待ちきれず、つい口を出してしまうミドル層教員が何人か見られた。そのグループは協議中にミドル層教員へのQ&Aになる傾向が見られたが、指導者がかかわって、初任者グループ内での協議がメインになるように仕向けた。「手をかけすぎてしまう先輩」の構図は、子どもに対する教員、親の構図と同じである。「自ら学び成長する教員」に向け、直接指導から見守りへの大きなベクトルの中で、確かな現状把握と見通しと具体的方策をリ

ード側が持つことが必要であろう。

- ・このプログラムを通して、初任者教員ばかりでなく、ミドル層教員自身の「初任者教員への理解」「適切・適度なかわり」「リード力育成」につながるが見えてきた。双方にとって、相互のかかわりの機会は非常に重要である。

4 作成教材

(1) DVD教材



○趣旨

- ・教員の資質・能力のうち、「授業力」の向上に係る教材として、DVD教材を作成した。
- ・「授業の達人」の実際の授業をDVD撮影し、そこで行われている具体的な手だてを明確にし、「授業の在り方」「授業のやり方」の範例を、初任者が見ても十分にわかるようにした。
- ・そのDVDを教員研修において活用することで、授業づくりや授業運営、授業分析の視点を理解し、初任者教員も自身の授業経営に取り入れていくことが期待できるものと考えている。

○利用対象

- ・初任者教員を中核とした初期層教員や講師をメインと考えるが、ミドル層教員やベテラン層教員についても十分に利活用できる。
- ・また、教員養成大学における授業においても、利活用できる。

○作成DVDの概要

- ・千葉県内5教育事務所、千葉市、千葉大学教育学部附属小学校それぞれから推薦いただいた9名の「授業の達人」の授業を撮影・編集した。
 - ・国語 (小1) ・社会 (小3) ・算数 (小3、小5) ・理科 (小6)
 - ・生活 (小1) ・音楽 (小4) ・図画工作 (小4) ・道徳 (小4)
- ・1枚のDVDに1~2授業教材を入れ、全6巻シリーズにした。
- ・DVDの内容ポイントや教員研修プリント資料を掲載した補助テキストもあわ

せて作成した。

- ・DVD教材（及び補助テキスト）を教育関係機関に頒布し、教員研修での活用を図る。

○作成DVDの内容

①「授業力」と「見える化」の概要と要点（解説／第1巻に所収）

- ・「達人に学ぶ授業力」研究（H22、千葉県教育センター・千葉大学）における「授業の4力と23のコンピテンシー」の考え方に基づく。

《以下は各授業部分に関する内容》

※ショートバージョン授業は②～④、フルバージョン授業は③・④

②授業力の「見える化」～テロップ解説なし

- ・授業者が手だてを施したタイミングでPoint 1～Point〇を表示している。
- ・「どのような手だてなのか」「その意味は何か」等を考える研修活用資料とする。

③授業力の「見える化」～テロップ解説あり

- ・②と同じ編集動画で、Point で示した部分に、要点を端的な文に示したテロップ解説を表示している。

④授業後のインタビュー

- ・授業者に授業ポイントや授業に対する思い・考え等をインタビューし、5分程度に編集した。

(2) テキスト冊子

○DVDの内容に関するテキストを作成した。内容は以下の通りである。

○必要な部分を取り出してコピーし印刷できるように、冊子綴込みではなくプリント差込ファイルの形態でまとめている。

1. 「授業力」と「授業力の『見える化』」

2. 本DVDシリーズの特性と構成

3. 本DVDシリーズを活用した研修プログラム例

“達人の授業”をみる～研修教材DVDを活用した

「授業を『みる』力」獲得プログラム

4. 研修用プリント～DVDワークシート

Vol. 1 (2) 道徳／小学校2年生

Vol. 2 (1) 算数／小学校3年生

(2) 算数／小学校5年生

Vol. 3 (1) 社会／小学校3年生

(2) 理科／小学校6年生

Vol. 4 (1) 生活／小学校1年生

(2) 図画工作／小学校4年生

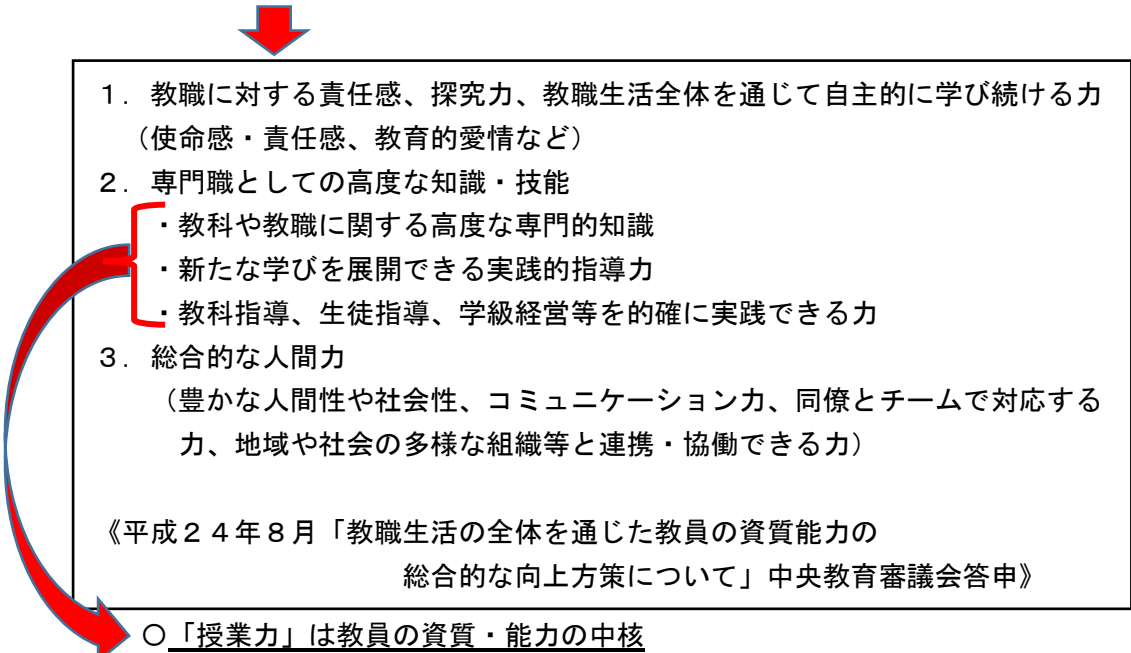
Vol. 5 国語／小学校1年生（フルバージョン）

《次ページ以降（～P37）、テキスト内記載を掲載する（一部略）》

1. 「授業力」と「授業力の『見える化』」

(1) 「授業力」の位置付け

○教員の資質・能力の向上

- 
1. 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力
（使命感・責任感、教育的愛情など）
 2. 専門職としての高度な知識・技能
 - ・教科や教職に関する高度な専門的知識
 - ・新たな学びを展開できる実践的指導力
 - ・教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力
 3. 総合的な人間力
（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）

《平成24年8月「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」中央教育審議会答申》

○「授業力」は教員の資質・能力の中核

(2) 「授業力」とは？

- 多くの研究者や研究機関が様々に述べ、論じている
- 「なんとなく」のイメージで捉えられていることも多い

○ここでは、1つの考え方を取り上げる

「達人」に学ぶ授業力

—H22. 千葉市教育センター&千葉大学共同研究—

・「授業の達人」と言われる先生方へのインタビュー



・「よりよい授業を行う上での重要な事柄」を典型的整理



・「4つのカテゴリー」と「23この要点」にまとめられた



「授業の4力（よぢから）」と「23のコンピテンシー」

(3) 「達人」に学ぶ授業力～「授業の4力」と「23のコンピテンシー」

授業の4力	コンピテンシー				
授業コミュニケーション力	1)きく	2)みる	3)話す	4)対話育成	5)自由な空気づくり
一瞬の対応力	6)一瞬の対応	7)発問	8)ゆさぶり	9)ほめる叱る	10)つぶやきを拾う
意欲向上力	11)主体性	12)ささやき	13)興味関心	14)ユーモア	15)やる意義
	16)体験	17)導入	18)課題		
授業構成力	19)教材探し	20)省察	21)授業構成	22)教材研究	23)学習習慣

①授業コミュニケーション力～教師と子どもの親密なコミュニケーションの確立

- 1) きく…「耳」＋「体（目も含む）」＋「心」で聴く
- 2) みる…子どもを「見る」に尽きる。そして「診る（診断し洞察する）」
- 3) 話す…「わかりやすく」「伝わる」話し方で引きつけ、共感・納得させる
- 4) 対話育成…受容的共感的に聴き合い考え合い話し合う意識・関係をつくる
- 5) 自由な雰囲気づくり…間違ってもOK、の雰囲気・空気・環境をつくる

②一瞬の対応力～達人の共通する「達人たる所以」の中心箇所

- 6) 一瞬の対応…事前の場面想定の上で、予想外の瞬時を的確に把握し対応する
- 7) 発問…思考がより一層深まるような発問をする
- 8) ゆさぶり…子どもの「知的正義感」を刺激し、学習意欲を高める
- 9) ほめる・叱る…よさを事実と本気でほめ、期待と愛情を込めて端的に叱る
- 10) つぶやきを拾う…子どもの中に入り、聴き、即座に価値づけし取り上げる

③意欲向上力～好奇心や興味関心に裏打ちされた「内発的動機づけ」の意欲の向上

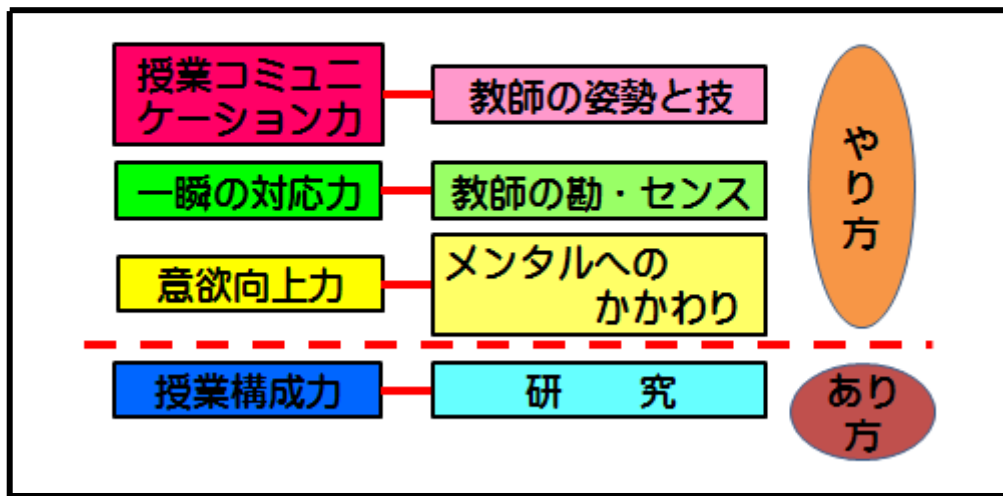
- 11) 主体性…「主体性の演出」を準備し働きかけ意図的に仕掛ける

- 12) ささやき…「種をまく」イメージで子どもの気づきにつなげる
- 13) 興味関心…授業への期待感や「面白い」「楽しい」実感を味わわせる
- 14) ユーモア…優しさや心遣いから出るおかしみや洒落で、心や場を和ませる
- 15) やる意義…その学習の必然性を理解させ、興味関心を湧かせ、動き出させる
- 16) 体験…「学びの本質」を押さえた上で、学ぶ面白さを十分に体験させる
- 17) 導入…知的好奇心を揺さぶり魅力を感じさせる。目的や見通しを明確にする
- 18) 課題…子どもを揺さぶり、生活と結びつき、問題解決可能な課題を立てる

④授業構成力～優れた授業の土台。授業が有効になるようなプロセス計画と綿密な準備

- 19) 教材探し…授業の教材を日頃から探し、ヒントを見分けアイデアを活かす
- 20) 省察…どこで学びが成立し、どこでつまずいたかを省察し、評価する
- 21) 授業構成…授業の理想型と到達点を描き、具体的場面をイメージし構成する
- 22) 教材研究…教科教材に対する奥深さ、スペシャリストとしての力を
- 23) 学習習慣…一定の学びの様式を反復練習し、よい習慣を見につける

(4)「達人」に学ぶ授業力～「授業の4力」の意味



○「授業構成力」がしっかりした上で、他の3つの力が生きていく



授業の「あり方」がしっかりしてこそ、授業の「やり方」が効果的になる

「達人」に学ぶ授業力（授業の「4力」と「23のコンピテンシー」）については、次の書籍に詳しく書かれています。

○千葉市教育センター

「読本：達人に学ぶ授業力～10年目までに身に付ける授業の4力」

(2010初版)

(5) 授業力の「見える化」

○授業中の教師の何気ない言葉やさり気ない動きの中に、実は大きな意味がある、ということがよくある

- ・ 1つ1つを取り上げて、「今のはこんな意味」と見える形に表すことは、普段ほとんど行われることはない
- ・ 授業者自身が無意識に行っていることが多い

○若年層教師が、他の教師の授業を参観して、ほとんどメモも取らずにただ眺めていて終わってしまう、ということが見られる

- ・ 何をメモしていいのかわからない
- ・ 授業の何をみればいいのかかわからない

○「授業をみる力」と「授業をする力」は連動する

- ・ 「授業をみる」・・・そこで行われる様々な事柄の意味づけができる



- ・ 自分の授業で行う様々な事柄の意味を意識できる



自身の「授業力」向上につながる

○教師が授業中に行う様々なコンピテンシーを「見える・わかる」形にして示すことが大事



- ・ 「授業をみる力」や自身が「授業をする力」の向上につながる

本DVDシリーズの作成

2. 本DVDシリーズの特性と構成

○本DVDシリーズの構成・・・6本組構成、その中に9つの授業

- ・千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、千葉大学教育学部附属小学校から推薦いただいた中から、9人の教師をセレクト
- ・「普段通りの授業」という条件で授業を撮影
- ・うち、7つを15分程度以内の「ショートバージョン」、2つを「フルバージョン」として編集
- ・ショートバージョンの7授業については、それぞれ「テロップ解説なし」「テロップ解説あり」「授業後のインタビュー」の3チャプター構成
- ・フルバージョンの2授業については、それぞれ「テロップ解説あり」「授業後のインタビュー」の2チャプター構成



○初任・若年層の教師はもとより、教師の経験年数や校種・教科を問わず活用できるものとして作成

- ・9つあるどの授業からでも、教師が授業中に様々な手立てを行っていることや、数々の「授業のポイント」があることがわかり、それらの意味や大切さを十分に

理解できる

- ・「授業力」向上に関する校内研修・校外研修プログラムとして利用できるよう、付属テキスト（本テキスト）も作成

《授業力の見える化》 達人の授業DVDから学ぶ ～研修教材DVDを活用した「授業を『みる』力」獲得プログラム～

研究授業を参観しても、ただボーッと眺めていてメモもろくに取らない若手教員を時折見かけます。授業後の協議会で意見を求められると、「子どもたちがよく発言していてよかったと思います」…と一言。えっ、それだけ？ なんてことも。

実は、「授業の何をどうみたらよいか」がよくわかっていないことが多いのです。つまり「授業を『みる』力」がまだ育っていない、というわけです。

研究授業は、ある主題（テーマ）を持って研究的に検証するためのものですから、「研究的に授業をみる」ことが大切です。とはいえ、それ以前に「授業の中で何がポイントなのか」がわかっていないと、授業実践そのものが心許ないし、いつまでたっても自分に自信を持てません。

「人の授業をみて学び、自分の授業の向上につなげる」のが、若手教員の授業力アップの確かな道の1つです。「授業を『みる』力」は「授業を『する』力」に直結します。

「授業を『みる』力」は、研究授業に限らず、日常に行っているごく「普通」の授業を「する」上で、おおいに役立つのです。

ここでは、“達人の授業”を撮影・編集した研修教材DVDの視聴を通して「授業を『みる』力」を獲得する研修プログラムを紹介します。

もちろん若手教員ばかりでなく、中堅・そしてベテラン教員にとっても、自身の授業を振り返り、改善するうえで非常に有効なプログラムです。

DVDに収録された授業はすべて小学校の授業ですが、中学校や高等学校での教員研修でも、十分に有効なものです。逆に、「授業のあり方・やり方」について学ぶべき点が多くあるでしょう。映像内での手立てや配慮を「それはなぜ行っているのか、必要なのか」「中学生（高校生）に対しては具体的にどうすればよいか」を考えてみてください。

また、このプログラムは、教職を目指す学生を対象とする授業・講座でも高い効果があります。

様々な場面で、積極的にご活用ください。

《ねらい》

- “達人の授業”のDVDを視聴し、そこで行われている教師の様々な手立てを考え

- たり、テロップ解説から気づいたりすることにより、授業実践における「あり方」や「やり方」のポイントや配慮事項などをつかみ、参加者個々の授業力向上につなげる。
- グループ協議や全体での共有を図るプログラムワークを通して、相互の共感的・協働的意識・関係の向上を図るとともに、参加者個々の多面的・多角的な見方・考え方を鍛える。

《DVD収録の各授業の共通ポイント》

- 「教科内容」と「授業方法」の両面の重視
- 子ども育成や学級経営と結び付けた授業の展開
- 現場教員の「授業を視る視点」の明確化
- 「授業をみる」力と「授業をつくる」力の両面の育成

《プログラムの概要》

《対象者・人数》

- 若手教員、中堅・ベテラン教員、管理職

《人数》

- 1人もしくは数人～数十人（3桁の人数でも可能）

《形態》

- 基本的には「一斉 → 少人数グループ → 一斉」の形態変化で行うプログラムである（個人研修でも使用可能）
- 少人数グループについては、全体人数や座席（座り方）の形態などにより変動はあるが、1グループが大体4～6人になるようにすると、協議が有効に働き、活動しやすい

《時間》

- 30分、60分、90分の3バージョン（→後述）
（その中では90分プログラムが最も内容が充実する）

《準備する用具・機器》（●のものは、本DVDシリーズ及びテキストに所収）

- 研修教材DVD（+テキスト）
 - ・教員研修DVD シリーズ授業力の「見える化」
- プリント（以下のプリントデータを、それぞれ人数分印刷）
 - 【ショートバージョンの授業を使用する場合】
 - ・プリントA（個人書き込みプリント）
 - ・プリントB（グループ協議用プリント）
 - ・プリントC（テロップ解説プリント）

【フルバージョンの授業を使用する場合】

・テロップ解説プリント

●リフレクションカード

○筆記用具（各自）

○機器・・・PC（もしくはDVDデッキ）、プロジェクター、スクリーン

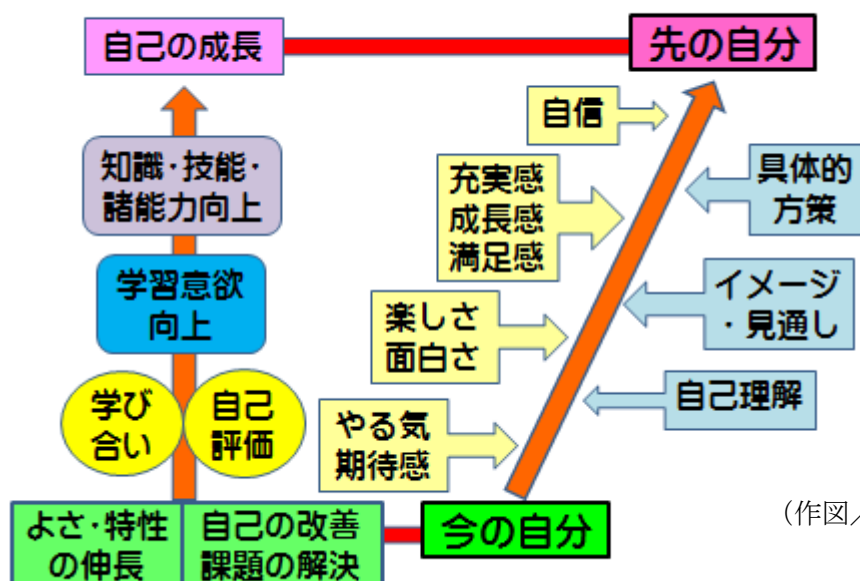
《プログラム実施上のポイント》

○特に若手教員対象の研修における活用のポイント

- ・中堅・ベテラン教員がメンター（指導者・助言者）となって、各グループに1人入るとすると、中堅・ベテラン教員自身のメンター力向上にもつながる。
- ・グループ協議では、各ポイントに対する相互の見方の違いを「どれが正しいか」ではなく、「様々な見方がある」「1つの“場面”にも様々な意味がある」という見方・考え方を多面的・多角的に広げる方向で、ブレインストーミング的に行う。
- ・指導者（及びグループメンター）は、若手教員（各メンバー及び各グループ）の状況をよく観察し、基本的に途中ではできるだけ口をはさまないように（最小限度に）する。指示や命令ではなく、助言と対話により、被育成者（若手教員）本人の自発的・自律的な気づきにより成長を促すことを大切にする。コメントは、被育成者同士が一通り協議した後で簡潔に行う。
- ・指導者（及びグループメンター）は、プログラムにおける被育成者（若手教員）の気づきや発言、考え方、取り組む姿勢などのよさを見取り、取り上げて、「プラスを伸ばす」方向でコメントする。加えて、例えば「このような見方・考え方がある」「他の授業でもこのポイントはこのような点で重要だ」など、被育成者が気づかない事柄について示唆を与えることで被育成者の視野を広げるようにする。

つまり、このプログラムは「『自ら育つ教師』を育てるプログラム」ともいえる

《「自ら育つ教師」を育てる（モデル図）》



（作図／佐瀬）

○研修におけるリフレクション（振り返り・反省的考察）の実施

- ・授業DVDをただ見るだけで終わるのではなく、適切なリフレクションを行うことで、研修成果を確かなものにし、以降の実践に活かすことが重要である。
- ・視聴後の話し合いやリフレクションシートへの記述などを通して、個々のリフレクションを「見える化」することで、具体的自覚につなげる。

《プログラム例》

- 《プログラム－1》～《プログラム－3》はDVDのショートバージョン授業（7授業）に対応する。
- 《プログラム－4》《プログラム－5》はDVDのフルバージョン授業（2授業）に対応する。

《プログラム－1》・・・30分バージョン

1. 授業をみる時、何に重点をおくか、どこに着目するかを話し合う。（5分）
 - 「指導案の具現化」「教師の言動」「子どもとのかかわり」など、いくつかのジャンル化を意識する。
2. DVD映像（テロップ解説あり）を視聴し、「手立て」を確認する。（20分）
 - プリントCを配付し、先の書き込みプリントと見比べながら視聴する。
 - 引き続き、DVD映像（授業後インタビュー）を視聴し、授業者の意識や意図・考えを知る。
3. まとめ（5分）
 - コーディネーターからのまとめ ○リフレクションノートへの記述

《プログラム－2》・・・60分バージョン

1. 授業をみる時、何に重点をおくか、どこに着目するかを話し合う。（10分）
 - 「指導案の具現化」「教師の言動」「子どもとのかかわり」など、いくつかのジャンル化して整理する。
2. DVD映像（テロップ解説なし）を視聴し、No.1～No.Nで表示された授業での「教師の手立て」を各自プリントAに書き込む。（15分）
 - 各自、書き込みプリントのNo.1～No.Nの各項目に「手立て」と思ったことを書く。
3. DVD映像（テロップ解説あり）を視聴し、「手立て」を確認する。（15分）
 - プリントCを配付し、先の書き込みプリントと見比べながら視聴する。
4. 授業における教師の指導の要点について話し合う。（15分）
 - プリントへの記述やDVDの感想など自由に発表する中から要点をまとめる。
 - DVD映像（授業後インタビュー）を視聴し、授業者の意識や意図・考えを知る。（5分）
 - 必要に応じてDVD内の「授業の4力、23のコンピテンシー」を紹介する

(資料をプリントアウトして配付)。

5. まとめ (5分)

○コーディネーターからのまとめ ○リフレクションノートへの記述

《プログラムー3》・・・90分バージョン

1. 授業をみる時、何に重点をおくか、どこに着目するかを話し合う。(10分)
○「指導案の具現化」「教師の言動」「子どもとのかかわり」など、いくつかジャンル化して整理する。
2. DVD映像(テロップ解説なし)を視聴し、No.1～No.Nで表示された授業での「教師の手立て」を各自プリントAに書き込む。(15分)
○各自、書き込みプリントのNo.1～No.Nの各項目に「手立て」と思ったことを書く。
3. 少人数グループになり、各自がプリントに書いた「手立て」を出し合い、話し合う。(20分)
○プリントBに話し合いで出された意見を書き込みながら協議を進める。
○「どれが正しい」ではなく、各々の見方のよさを認め合いながら様々な見方があることを確認する。
4. DVD映像(テロップ解説あり)を視聴し、「手立て」を確認する。(15分)
○プリントCを配付し、先の書き込みプリントと見比べながら視聴する。
5. 授業における教師の指導の要点について話し合う。(20分)
○プリントへの記述やDVDの感想など自由に発表する中から要点をまとめる。
○DVD映像(授業後インタビュー)を視聴し、授業者の意識や意図・考えを知る。(5分)
○必要に応じてDVD内の「授業の4カ、23のコンピテンシー」を紹介する(資料をプリントアウトして配付)。
6. まとめ (10分)
○コーディネーターからのまとめ ○リフレクションノートへの記述

《プログラムー4》・・・60分バージョン

1. 授業をみる時、何に重点をおくか、どこに着目するかを話し合う。(5分)
○「指導案の具現化」「教師の言動」「子どもとのかかわり」など、いくつかジャンル化して整理する。
2. DVD映像(テロップ解説あり)を視聴し、「手立て」を確認する。(50分)
○プリントCを配付し、先の書き込みプリントと見比べながら視聴する。
○引き続き、DVD映像(授業後インタビュー)を視聴し、授業者の意識や

意図・考えを知る。(5分)

5. まとめ(5分)

○コーディネーターからのまとめ ○リフレクションノートへの記述

《プログラムー5》・・・90分ヴァージョン

1. 授業をみる時、何に重点をおくか、どこに着目するかを話し合う。(10分)
○「指導案の具現化」「教師の言動」「子どもとのかかわり」など、いくつかジャンル化して整理する。
2. DVD映像(テロップ解説あり)を視聴し、「手立て」を確認する。(45分)
○プリントCを配付し、先の書き込みプリントと見比べながら視聴する。
4. 授業における教師の指導の要点について話し合う。(30分)
○プリントへの記述やDVDの感想など自由に発表する中から要点をまとめる。
○DVD映像(授業後インタビュー)を視聴し、授業者の意識や意図・考えを知る。(5分)
○必要に応じてDVD内の「授業の4カ、23のコンピテンシー」を紹介する(資料をプリントアウトして配付)。
5. まとめ(5分)
○コーディネーターからのまとめ ○リフレクションノートへの記述

《次ページ以降(～P36)、テキストの

「4. 研修用プリント～DVDワークシート」の例を掲載する》

- 掲載例は「Vol.1(2) 道徳/小学校2年生」のものである。他の8授業についても、同様のワークシートを作成し、テキストに掲載してある。
- Aを「個人書き込みプリント」、Bを「グループ協議用プリント」、Cを「テロップ解説プリント」としてある。
- ショートヴァージョンの7授業にはA～C、フルヴァージョンの2授業にはCを作成・テキスト掲載した。

DVD 授業力の「見える化」～「達人」の授業に学ぶ Vol. 1～(2)

小学校2年生/道徳 A:個人書き込みプリント

- ポイントはNo.1～No.30まであります。画面の下方に各No.が映ります。
- DVD映像(テロップ解説なし)をみながら、それぞれのポイントNo.が画面に出ている時に行われている「教師の手立て」を、プリントに書き入れましょう。
- ポイントNo.は次々に出てきます。メモは簡潔な言葉で書き、画面を見逃さないようにしましょう。

No.	内 容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	

27	
28	
29	
30	

DVD 授業力の「見える化」～「達人」の授業に学ぶ Vol. 1～(2)

小学校2年生／道徳 B：グループ協議用プリント

○個人書き込みプリントに書き込んだものを、グループになって出し合い、各ポイント No. での「手立て」はどんなことか、話し合って共有しましょう。

○話し合いで出された事柄を、プリントに書き入れましょう。

No.	内 容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	

29	
30	

DVD 授業力の「見える化」～「達人」の授業に学ぶ Vol. 1～(2)

小学校2年生／道徳 C：テロップ解説プリント

○グループ協議した事柄と、テロップ解説プリントの各ポイント No. を見比べましょう。

○DVD映像（テロップ解説あり）をみながら、「手立て」を確認しましょう。

※各ポイント No. での「手立て」は、様々な意味を持つものがあります。テロップ解説の各文は、「そこで行われた手立ての意味の一例」として考えてください。

No.	内 容
1	映像で子どもの興味を高め、授業に一気に引き込む
2	導入の話題から資料の内容にスムーズにつなげる
3	範読と映像のコラボにより、子どもがイメージをより具体的に持てるようにする
4	資料の内容を子どもとやりとりしながら振り返り、場面絵や短冊を活用しながらポイントを押さえる
5	子ども自身の事柄に一度引き寄せ、資料の登場人物の状況や心情との距離を縮め、共感的に考えられるようにする
6	授業の中でじっくり考える中心場面を焦点化し、子どもにわかりやすく示す
7	ロールプレイング（役割演技／RP）を通して、本時で扱う内容項目（価値）に迫れるようにする
8	RP開始前に場面状況・登場人物の心情を再確認し、演者・観察者双方の意識を高める
9	「3、2、1、パンツ」の合図で、劇中の世界に転換する
10	RPに慣れない段階では、教師が登場人物の一人になり、子どもが演じやすいようにリードする
11	演技を見た感想を発表させ、演者への共感を通して、登場人物の心情に更に迫る
12	子どものつぶやきを取り上げ、あいづちや問い返しなどしながら、スムーズな思考の流れを組み立てる
13	がんばった子どもを皆で賞賛する（よさやがんばりの認め合いを普段から積極的に行い、習慣化させる）
14	RPに慣れてきたら、1回目に教師が演じていた役も子どもに任せ、教師は見守りの立場に移行する
15	観客の子どもの感想や疑問などから、演者の子どもの心情を引き出し、深める
16	すっきりとした構造的な学習プリントを使い、何をどうすればよいか、わかりやすく説明する
17	プリントと板書を同じ構成にして、板書を「呼び水」にしなが、子どもがより書きやすくなるように導く

18	子どもの小さな声の発言も大切に扱い、フォローしながら全体の中に位置づける
19	机間指導を通して、子ども個々の状況を確認し、必要に応じて個別指導を行う
20	子どものプリント記述や学習状況を座席表に簡潔にメモして、以降の指導に活かす
21	子どもが書いたことに対して大事なところやよいところに朱で線や印、丸などを加え、その大事さやよさを再確認させる
22	机間指導を通して確認した子どもの状況をもとに計画的指名を行い、子どもの発言をつなげて黒板にまとめていく
23	普段、自分から発言できない子どもにも、教師からの意図的指名により「活躍の場」を設定し、自信につなげる
24	範読・映像・場面絵を効果的に結びつけながら的確な発問を行うことで、子どものスムーズな考えや発言につなげる
25	「ハイ、ハイ、ハイ」の大きな声も指名の瞬間に静まり発表者に集中する学習規律を日常から積み重ね、身につけさせる
26	「特に大切な気持ちはどれ？」の発問で、本時の主題に一瞬で集約させる
27	終末は「自分自身のこと」に立ち返らせて、素直な心情を表出させる
28	何人かの子どもの発表を通し、本時の主題を強く意識づけさせ、まとめにしていく
29	授業の最後に、本時の題材と子どもをつなげ励まし意欲を持たせていくような話を教師から端的に行う
30	あいさつをきちんと行い、時間と意識のけじめ・切り替えができるようにする

5. リフレクションシート

- プログラムの終末時には、必ずリフレクションタイムを入れる。その際に、評価の視点を明確にしながら短い時間で簡潔に記述できるシートを用いることで、リフレクションの効果が高まる。
- 下のシートはその例である。A5サイズで、プログラムの内容や方法に対する6項目の5段階スケールレベルチェックと自由記述から構成している。
- 6項目は、上3つが自己評価項目、中2つが授業評価、下1つが総合評価である。
 - ①内容への関心・・・内容に関心が持てたか（高まったか）
 - ②理解の深化・・・自身の理解が深まったか
 - ③自己の向上・・・自己の向上が図られたか
 - ④内容の適切性・・・内容は適切なものだったか
 - ⑤活動の充実・・・活動は充実していたか
 - ⑥全体として・・・全体を通してどうだったか
- 各項目について、◎（とてもそう）、○（そう）、△（ふつう）、×（あまり）そうではない、××（まったくそうではない）、の5段階のいずれに近いかをマークする。
- 自由記述では、感想（感じたこと・思ったこと）やわかったこと、思った・考えたこと、意見、質問などを自由に記述する。
- トータルで約5分間程度の時間で書き、その後時間的余裕があれば、グループ（or 全体）シェアをしたり、質問タイムを取ったりする。
- このリフレクションシートは、受講者自身の自己評価ばかりでなく、指導者側の評価（指導評価・カリキュラム評価）にも有効である。

「達人の授業DVDから学ぶ」研修プログラム リフレクションシート	職・年数										
氏名											
所属校											
※評価 上3項目＝自己評価／中2項目＝授業評価／下＝総合評価 5＝◎ 4＝○ 3＝△ 2＝× 1＝××											
評価	5	4	3	2	1						
内容への関心											
理解の深化											
自己の向上											
内容の適切性											
活動の充実											
全体として											
今回のプログラムを振り返って											

Ⅲ 連携による研修についての考察

1 連携を推進・維持するための要点

(1) 大学・行政・学校の情報共有と人的パイプ強化による相互理解

本研究において、ワーキンググループ（WG）やフォーラム等での協議や調査等を通して、県教委と市町村教委、学校それぞれの状況や考え方について大学側も理解と整理が進み、行政側にも大学の状況を理解していただいた。例えば、以下の点が明らかになり、今後の連携・協働の方向性も見えてきた。

- ・教員研修を巡る、県教育委員会（本庁各課、教育事務所、教育センターなど）、市町村教育委員会それぞれの立場や考え方は様々で、現在、その調整を図る機関・部署がない。
- ・県内の地域的特性として、都市部と郡部の格差が極めて大きくなっている状況である。都市部各市は県を先行し、郡部小規模市町村では遅れている傾向がある。特に郡部へのでこ入れが求められる。
- ・WGや教育学部フォーラムにより、大学・行政・学校の連携・協働の必要性・重要性の認識が進んだ。連携組織のあり方をより改善していく方向性も見えた。
- ・特に、相互の具体的共通理解を強め、連携・協働を推進する上で鍵になるのは、大学・県教委・市町村教委・学校現場の相互の人的パイプである。キーマンとしての交流人事教員の役割が重要であることが確認できた。

(2) これまでの研究・研修実践と連携協力を生かした研修プログラムの実践・教材作成

大学・行政・学校それぞれに、これまで様々な研究・研修実践を重ねてきている。その中には、大いに活用すべきものがあるとともに、組み合わせることにより効果が増すことも多い。大学における研究、県教委や市町村教委・教育センター等における研究や作成物の考え方やプログラムの整理を進めることにより、研修プログラムや教材への活用が効果的に図られる。その際には、連携協力体制が整っていないことには実現化できるものではない。

- ・本研究においては、平成22年度千葉市教育センター・千葉大学共同研究「教師のコンピテンシー育成のための校内研修OJTの在り方」における「『達人』に学ぶ授業力」をもとに、研修教材DVD・テキストを作成し、研修プログラム「授業力の『見える化』～達人の授業DVDから学ぶ」プログラムを構成した。
- ・特に研修教材DVDについては、オール千葉（県内5教育事務所＋千葉市＋附属小学校）によるDVDとして制作することができた。千葉県教育委員会（教育庁本庁及び各教育事務所）・千葉市教育委員会・千葉大学教育学部附属小学校に協力いただき、DVDに授業を所収するに適切な教員を推薦いただけたことが、教材作成において大きなポイントになった。

- ・実施した研修プログラムは実践的・具体的であり、相互のかかわり合い・学び合いを重視したものである。これら初任者教員にとってもミドル層教員にとっても、自己理解・相互理解が深まり、資質能力形成の上でも有効であった。研修教材DVDについても、これまで漠とした授業の見方をしてきた初任者も、授業中のポイントや教師の手立て等、授業の「あり方」や「やり方」の理解が進んだ。これらのプログラムの基本的スタンスは、どの研修においても重要であるとする。
- ・初任者教員とミドル層（リード層）教員の両者を研修の場でリンクさせることで、相互理解と連携・協働、そして双方の成長を促すことが確かめられた。しかし、ただリンクさせるのではなく、その場をコーディネートする立場の者が確かな現状把握と見通しと具体的方策を持っていることが極めて重要である。そのため、例えば校内研修においては研究主任など、教員研修の指導者養成を図ることも必要といえる。

2 連携により得られる利点

- 大学側においては、「ミッションの再定義」に伴い、教育委員会や学校とどう連携・協働を強化するかが命題である。本研究を通して、何についてどう連携・協働を図っていったらよいか、その必要性和内容が具体的に明らかになってきた。教員養成においても、教育委員会や学校と連携していることで、より学校現場とつながる教員養成カリキュラム・授業を構成し、かかわりを活かした実践を展開していくことが可能になる。また、大学の教員が、学校現場や教育センター等の教員研修をフィールドとして、専門性を活かしたかかわりを実践していくことで、自身の研究をより確かなものにするができる。
- 教育委員会側においては、大学の知見を教員研修に活かすことができることが大きな利点である。様々な分野の専門的知見を有する大学教員の能力を活用することが、教員研修を構造的に捉え、大きく改善・改革していく上で有効である。教員研修のカリキュラム策定段階から大学教員がかかわることで、その教員が研修講師になった際にも、より効果的な研修を展開することが可能である。

3 今後の課題

- 大学（学部）内についても、千葉県・千葉市教育委員会についても、組織が非常に大きいこともあり、連絡調整がなかなか難しく、物事を進める際のスピードや手続に難がある。
 - ・これまでは大学の個々の教員・チームがそれぞれに活動を展開していた傾向が強い。大学内の横の連絡・連携を密に図り、情報共有と調整を図っていくことが必要である。
 - ・行政側においても、組織や業務が縦系を基本としているため、横をつないで変革していくことに難しさがある。
 - ・大学・教育委員会間のフォーマル連携とインフォーマル連携の両面での連携を図

- るための組織・システムづくりと運用が必須である。その中核としてのワーキンググループ（WG）の役割が大きい。
- ・しかし、WGでの協議を現実化する手続が非常に難しい。大学・県教委両組織におけるWGの位置付けの明確化とともに、WGの上部の意志決定組織設立など、実働的なシステムづくりを進める必要がある。
 - ・今後のさらなる改善に向け、関係諸機関や担当相互の人的関係を一層強くしていく必要がある。
- 初任者研修を始め、現行の教員研修がかなり固まっている形のものであり、そのあり方から改革することが難しい。
- ・学校現場や教員の負担感が大きい中での教員研修の整理統合をいかに図るか、具体的なプランを明確に持ち、提示していくことが重要である。
 - ・県・市町村の教員研修システム改善への大学のかかわりが弱い状況にあるが、大学の知見を教員研修システムに活かして、より効果的なものにしていくことを考えたい。
- 本研究で実施した研修プログラムは、初任者をはじめとする教員の資質能力育成を行う上で、ごく一部のものであるため、より幅広い内容を意図的・計画的・構造的に構成することで、より充実を図ることが大切である。また、本研究期間の中でDVD教材及びテキストの制作はできたが、汎用化までには至っていない。県教育委員会や市町村教育委員会等に対して、実物教材（DVDシリーズ+テキストのセット）を幅広く提供し、活用していただき、その評価を取りまとめて、研修プログラム改善に向けていく流れをつくっていききたい。

IV その他

《キーワード》 初任者とミドル層（リード層）のリンク 見える化 授業力
 連携・協働 リフレクション 教員研修DVD 授業の達人

《人数規模》 D（補足事項 5名～80名）

《研修日数》 A（補足事項 1時間～1日。ただし、2日間研修の中でプログラムを組み入れたものについては、そのプログラム所要時間を換算）

【問い合わせ先】

国立大学法人千葉大学

教育学部附属教員養成開発センター 佐瀬 一生

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

TEL&FAX 043-290-2692 (直通) E-mail sase@faculty.chiba-u.jp